

高岡市埋蔵文化財調査概報 第59冊

柴野遺跡調査概報

—— 平成15年度 社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園の増築工事にともなう発掘調査 ——

2004年4月

（株）石堤児童福祉会石堤保育園
高岡市教育委員会

柴野遺跡調査概報

—— 平成15年度 社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園の増築工事にともなう発掘調査 ——

2004年4月

（編）石堤児童福祉会
石堤保育園
高岡市教育委員会

序

柴野遺跡は、古くから北陸道の一角に位置した交通の要所でありました。その重要性は、隣接する麻生谷遺跡、ならびに麻生谷新生園遺跡における平安時代を中心とした調査成果によってもうかがい知ることができますし、周辺地域には川入駅が置かれたとされております。

この度の調査では、古代の人々が往来し、あるいは物資を運搬した交通の動脈であつた古代北陸道周辺の景観の一端を垣間見るべき成果を付け加えることができたといえましょう。

また、石堤児童福祉会石堤保育園には文化財保護について深いご理解をいただき、調査費用のご負担についても格別のご配慮を賜りました。ここに調査成果を報告いたし、感謝の意を表したいと思います。

最後になりましたが、調査成果が多くの方々に活用され、さらに地域の歴史及び文化理解の一助となれば幸いです。

なお、最後になりましたが、調査実施にあたりまして多人なご協力をいただきました方々に厚く御礼申し上げます。

平成16年4月

高岡市教育委員会

教育長 細呂木 六良

例　　言

1. 本書は、富山県高岡市における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 本書は、高岡市柴野遺跡における発掘調査の概要報告書である。
3. 本書は、国庫補助金（試掘調査）ならびに、原凶者負担金（本発掘調査）による成果である。
4. 当該事業は、社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園の地盤工事にともない、高岡市教育委員会と社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園、ならびに北陸航測株式会社の3者が協定を締結し、実施したものである。
5. 屋外調査は平成15年11月10日から同年12月4日まで実施した。
6. 調査地区は富山県高岡市柴野地内に所在する。
7. 発掘調査にかかる関係者は次のとおりである。

高岡市教育委員会 文化財課

課長 大石 茂

副主幹 木林 弘吉

課員 根津 明義、荒井 隆、太田 浩司

北陸航測株式会社 文化財課

課長 宮森 俊英

調査員 守田 路

8. 現地調査は、太田浩司文化財保護主事の監理、指導の下、守田が担当し、調査補助としては、宮森俊英、辺城義が担当した。また、本書の執筆は行政的文書を除き、守田、宮森が執筆した。

9. 現地調査及び報告書の作成時においては、次の方から指導及び協力を得た（敬称略）。

根津 明義 (社)高岡シルバー人材センター

10. 本書における遺物番号は次のとおりである。

101～須恵器、 201～土師器、 301～陶磁器類、 401～土鍬、 501～石製品

11. 当発掘調査事業にかかる調査及び整理調査参加者は次のとおりである（五十音順、敬称略）。

企森 栄治 福家 義久 山崎 勝一 山崎 喜美男 (以上、(社)高岡シルバー人材センター他)

池田 昌美 上野 由美子 中田 郁子 藤井 美紀 水口 伸一

12. 基本土層は、地点により違いが認められるものの、既ね次のように分類される。

1層：10YR3/2黒褐色シルト 10～30cm (主として表土)

2層：10YR2/2墨褐色シルト 10～25cm (遺物包含層)
(遺構確認面)

3層：10YR3/3暗褐色シルト 5～50cm

4層：10YR5/3にぶい黄褐色粘質土 5～20cm

5層：10YR6/3にぶい黄褐色粘質土 (地山)

13. 採図中の方位は真北を示す。

14. 本書における土層の識別は、『新版 標準土色帖（2000年度版）』を使用した。

目 次

序 章	1
検出遺構	2
出土遺物	10
結 語	13

挿図及び出土遺物実測図

- 図 1. 柴野遺跡（石堤保育園地区）・調査区位置図
- 図 2. 柴野遺跡各調査地区・遺構概略図
- 図 3. 柴野遺跡（石堤保育園地区）・調査全体図
- 図 4. 堀立柱建物 S B O 1・平面図及びエレベーション図（古代）
- 図 5. 堀立柱建物 S B O 2、O 3・平面図及びエレベーション図（中世）
- 図 6. 遺物実測図（占墳・古代須恵器・土師器・中世土器）
- 図 7. 遺物実測図（中世土器・珠洲・砥石・土錐）

挿表

- 表 1. 柴野遺跡（石堤保育園地区）遺構観察表

写真図版

- 図版101. 調査区全景（南方上空から）
- 図版102. 遺構検出状況（南方から）
- 図版103. S B O 1 堀立柱建物址（北方から）
- 図版104. S E O 1 井戸址（南西方から）
- 図版105. S E O 1 （南西方から）
- 図版106. S E O 1 完掘状況（西方から）
- 図版107. S X O 1 完掘状況（南西方から）
- 図版108. 重機掘削
- 図版109. 作業風景
- 図版110. 遺物写真
- 図版111. 遺物写真

序 章

遺跡概観

「柴野遺跡」は、高岡市域の西南端部に位置する遺跡である。その南方には小矢部川が流れ、西方には西山丘陵が形成されている。この周辺は『倭名類聚抄』や『延喜兵部式』所収の「諸国駅伝馬条」などをもとにした先史の文献史料的研究により、古代礪波郡に所属した川合郷や古代北陸道にともなう川人（合）駅の所在が提起されてきたが〔角川書店1978他〕、近年における発掘調査成果は、そうした説を検討するための有益な資料として蓄積されつつある。

柴野遺跡の周辺においては、官衙的な掘立柱建物群を検出した麻生谷遺跡〔高岡市教委1997〕など、多数の埋蔵文化財包蔵地が密集し、一つの遺跡群を形成している。

これら個々の包蔵地の年代を概観するならば、大局的には縄文時代から近世にいたるまでの長期にわたる営みが認められ、自然発生的な営みが存在していた可能性がある。加えて、西山丘陵上には小規模ながらも石堤柏堂古墳群が造営されており〔高岡市教委2000〕、さらに、麻生谷遺跡では古代における官衙的な施設も検出されているため〔高岡市教委1997〕、当地域においては一般集落的な営みが展開する傍らで、公的な性格を帯びた拠点の様相も並存していたとする総括的な見解も近年提起されている〔根津2004〕。



図1. 柴野遺跡（石堤保育園地区）・調査区位置図
平成15年度版・高岡市都市計画基本図（縮尺1/2,500）に加筆

なお、今回発掘調査を行った柴野遺跡は、平成12年に高岡市教育委員会がその指定範囲を整理したものである。「柴野遺跡」としての発掘調査は、平成3年に石堤保育園車庫建設予定地を調査した経緯があり、主に柱穴や構造遺構、古代を中心とした土器片などを検出している〔高岡市教委1992〕。また、今回の調査区は、昭和56年に調査された「アサバタケ遺跡」が東西に隣接しており、その調査区は現在の石堤保育園の園舎が建つ地にあたる。このときの調査では、比較的大型の掘立柱建物の検出が報告されている〔富山県教委1982〕。

調査にいたる経緯

平成15年6月6日付けで社会福祉法人石堤児童福祉会理事長養藤了文氏から、園舎及び敷地造成にかかる発掘の届出がなされた。これをうけて、同年6月9日から7月11日にかけて試掘調査を実施し、遺構としてピット（うち2個程度は柱穴になる可能性あり）及び土師器片が確認された。（図6、7-602、604、201、203、222、図版110）この結果は、富山県発掘調査等の対応基準に照らして、RC造園舎建築地點について本発掘調査が必要であると判断された。

その後、園側と協議を数度に渡り実施し、建築計画に迅速に対応すること、且つ調査費用のご負担について快くお受けいただいたことから、北陸航測株との3者協定により本発掘調査を実施することとなつた。

本調査は、北陸航測株式会社が実施した。現地調査期間は、平成15年11月10日から平成15年12月4日である。調査後の対応は、RC造建物は計画どおり建築されることとなり、一方では敷地部分に確認されている遺構については保護措置がはかられることになった。

検出遺構

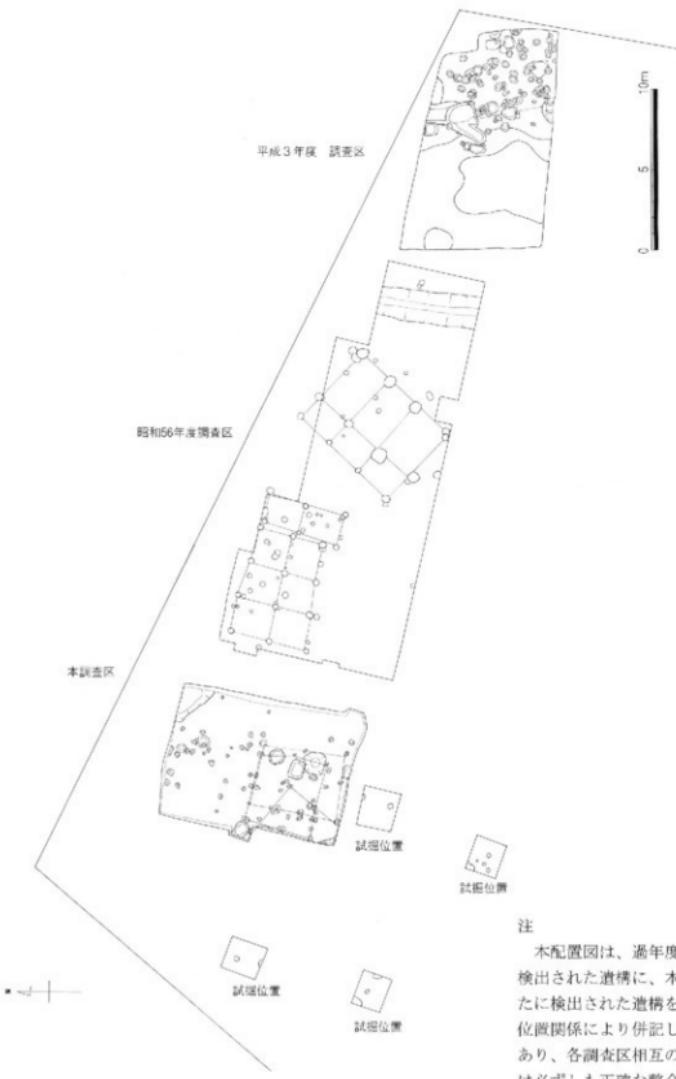
今回の調査区からは、掘立柱建物や井戸をはじめ、土坑や構造遺構などを検出している。概して調査区が狭小で、かつ後世における耕地造成等による遺構上面の削平や、長芋等の根菜類栽培にともなう擾乱がみられたものの、多くの遺構を検出することができた。

以下では、今回検出した遺構について解説を加えていくこととする。ただし、紙数の関係などから主要なもののみを対象としたい。また、掘立柱建物などのような大型の遺構については、連続する遺構が調査区外にものびることから、現状で考えうる最大解釈を述べている部分があることを、予め御了承いただきたい。

掘立柱建物 SB01

調査区の南西側で検出された古代の掘立柱建物とみられる遺構である。遺構の連続する部分が調査区外に所在するため、建物の規格については不明であるが、現状では桁行2間以上×梁行2間の側柱構造を呈すると思われる。

本址を構成する掘方ないし柱穴としては、P1をはじめ、P3、P6、P15、P16などがあげられる。いずれも覆土は黒褐色粘質土層を基本とし、一部に黄褐色の粘土ブロックを含む。P3とP6からは、柱の所在したことを窺わせる痕跡が土層断面に残存していた。掘方からは古代須恵、中世、年代不明の土師器片が出土している（図6-104）。



注

本配置図は、過年度の調査で検出された遺構に、本調査で新たに検出された遺構を、概ねの位置関係により併記したものであり、各調査区相互の位置関係は必ずしも正確な整合性を保つものではない。

図2. 柴野遺跡各調査地区 遺構配置図 縮尺1/300

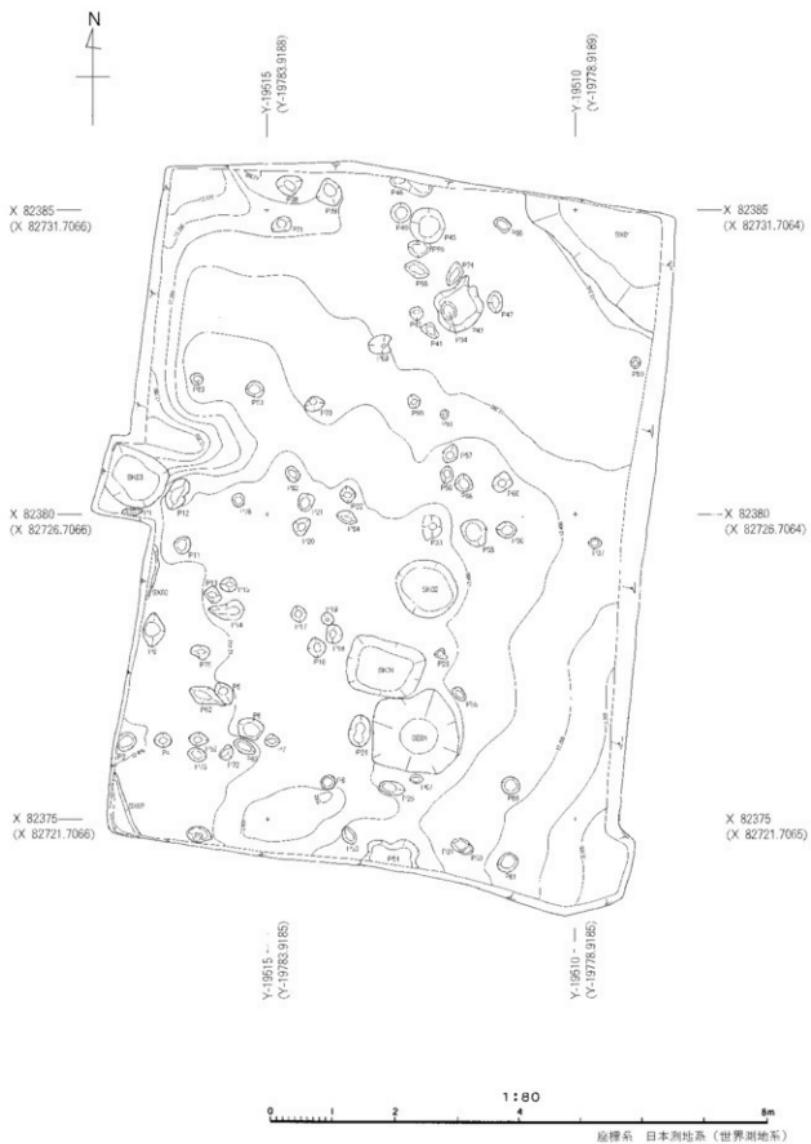


図3. 柴野遺跡（石堤保育園地区）・調査区全体図 縮尺1/80

なお、本建物遺構は桁行が南北方向に向き、隣接する「アサバタケ遺跡」で検出された廻付の古代掘立柱建物の梁行方向とほぼ同一方向を向いている（図2）。

掘立柱建物 SB02

調査区の南側で検出された中世の掘立柱建物とみられる遺構である。建物の規格については、現状では桁行2間×梁行2間の側柱構造を呈するものと思われる。

本址を構成するのは、P3をはじめ、P5、P31、P35、P53、P55、P64、P78などといった掘方ないし柱穴である。覆土は他のそれと同様に黒褐色粘質土層を基本とし、一部に黄褐色の粘土ブロックを含んでいる。P53の掘方からは年代不明の土師器片が出土している（SB01の項参照）。

なお、本建物遺構は、側柱の配列がほぼ東西、南北方向をとっており、「アサバタケ遺跡」で検出された東西方向にのびる掘立柱建物遺構の桁行方向とほぼ同じ方位をとる。

掘立柱建物 SB03

SB02と重なるように検出された、掘立柱建物の可能性を含んだ遺構である。現状では桁行2間以上×梁行2間の側柱構造を呈するものと考える。

本址はP2、P9、P12、P28、P33、P63、P67などの遺構を組み立てることによって成立つものである。これらの覆土は黒褐色粘質土層をベースに黄褐色の粘土ブロックを少量含むものであり、他の掘立柱建物とみられるそれと共通している。また、P33からは年代不明の土師器片が出土している。

井戸 SE01

今回の木闆窓では、調査区中央からやや南東方の地点から井戸とみられる遺構が検出されている。平面形はやや丸みを帯びた一辺1.5mほどの方形を呈し、深さは遺構確認面から約1.5mをはかる。

遺構の一端に北辺に隣接して土坑SK01をともなうほか、周囲には複数のピットも所在する。これらについては位置関係から、前者を往時に設置されていた木組みを引き抜いた際のもの、あるいは洗い場等とみるほか、後者のうちの一部については、井戸にともなう上屋の柱穴とする見解も提起されるかもしれないが、詳細は不明である。また、P24からは古代須恵器片、P25からは古墳上器片、P54からは弥生、古墳、及び不明土師器片が検出されている（図6-601、図7-601）。

本址の覆土は単層で黒褐色粘質土層である。遺構確認面から約45cm下がった部分からは、図7に掲載した砥石が複数の砾とともに出土している。また、弥生上器、古墳・古代や年代不明土師器、古代須恵器の破片なども出土している。

土坑 SK01

調査区内の南部で検出された土坑である。平面形は長径約1.2m、短径約90cmを測る。方形を呈する。断面形は皿形で、深さは遺構確認面から約24cmを測る。

本址からは図7の218のほか、弥生土器、古墳・中世・年代不明土師器、古代須恵器が出土している。（図6-102）覆土は黒褐色粘質土（Hue10YR2/2）の單一層である。

土坑 SK02

調査区南側中央の検出された遺構である。直径約1mを呈する円形の土坑である。

遺構の深さは確認面から約23cmを測り、断面形はゆるい皿形を呈する。覆土は黒褐色粘質土（Hue10YR3/2）を呈する单一層である。遺構覆土からは、中世や年代不明の土師器片が出土している。

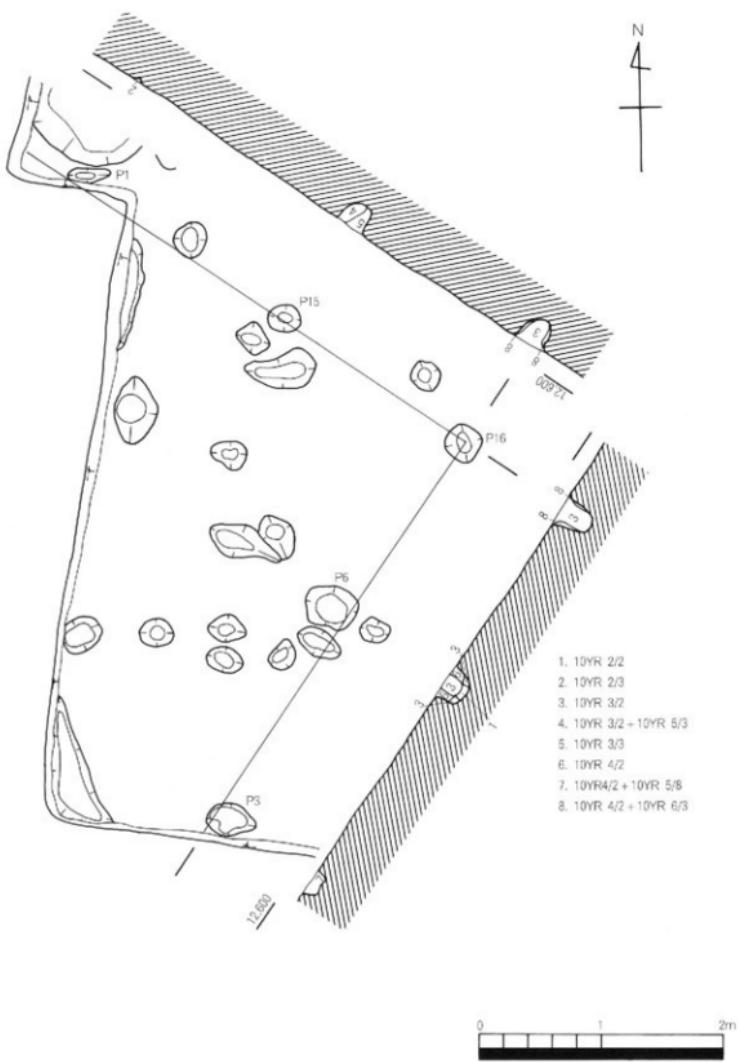


図4. 捜立柱建物SB01・平面図及びエレベーション図（古代）

縮尺1/40

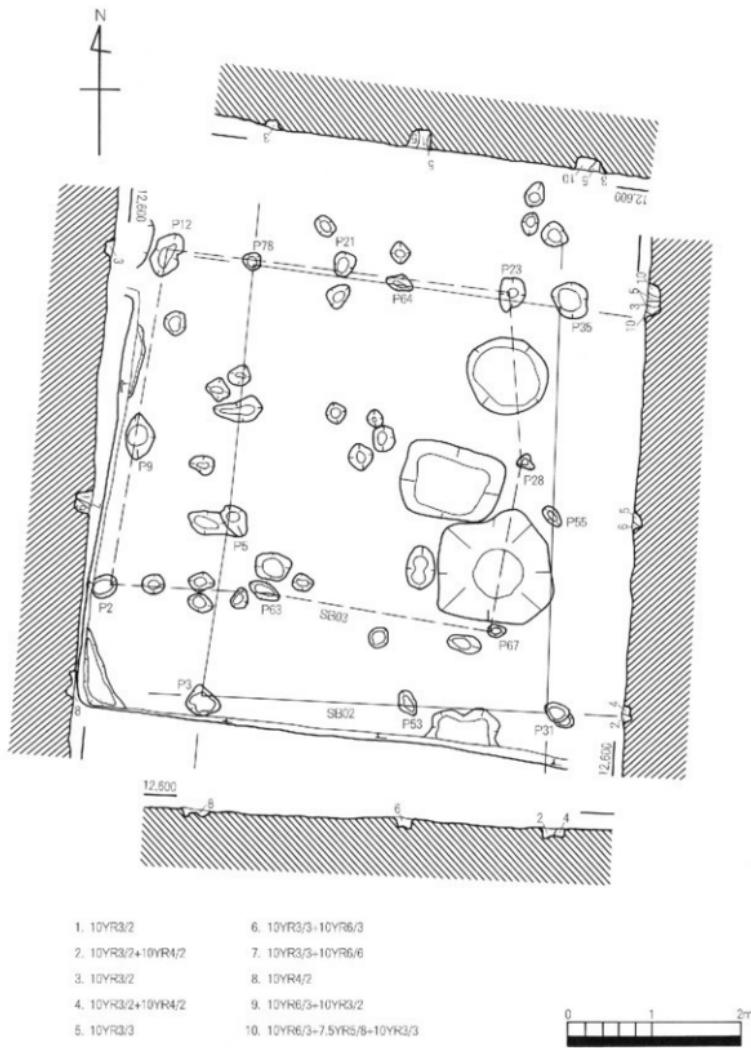


図5. 挖立柱建物SB02、03・平面図及びエレベーション図（中世）

縮尺1/60

表1. 柴野遺跡(石堤保育園地区)遺構観察表

遺構	長径 (cm)	短径 (cm)	高さ (cm)	覆土	出土遺物
SE01	138	120	157	1. 10YR3/2,3/3	陶生、古墳、古代土師、古代須恵、内黒土師、不明土師
SK01	122	89	24	1. 10YR2/2,3/2,6/4	陶生、古墳、中世土師、古代須恵、灯明、不明土師
02	102	93	23	1. 10YR3/2,7/1,7,5YR5/6 2. 10YR3/2,4/2	中世土師、不明土師
03	105	91	36	1. 10YR2/2,5/6 2. 10YR3/2,2/2,3/3,6/4 3. 10YR2/2,3/2,5/6	古代土師、珠螺
SX01	224	192	58	1. 10YR2/1,2/2 2. 10YR2/2	陶生、古墳、古代土師、中世土師、古代須恵、鍍銅、不明土師
02	95	48	20	1. 10YR5/3,3/2	古代土師、古代須恵
03	91	11	10	1. 10YR2/2,2/2	
P1	35	12	9	1. 10YR3/2,2/2	
2	32	27	8	1. 10YR5/3,3/2	
3	26	23	10	1. 10YR4/2	
4	26	23	10	1. 10YR3/2 2. 10YR4/2	
5	41	26	21	1. 10YR3/2,2/2	
6	42	33	31	1. 10YR3/2 2. 10YR4/2,2/2	不明土師
7	24	20	8	1. 10YR2/2,7/3 2. 10YR3/3,6/6	
8	23	22	10	1. 10YR3/2,2/2	
9	56	35	40	1. 10YR2/2 2. 10YR3/3 3. 10YR4/2,3/2	古代土師、中世土師
11	30	26	11	1. 10YR2/2,1/1 2. 10YR3/3,3/3	陶生、古墳
12	56	32	25	1. 10YR2/2,3/3 2. 10YR3/3 3. 10YR3/3	
13	30	28	20	1. 10YR3/2 2. 10YR5/3,3/2,5/6 3. 10YR3/3,3/2	
14	60	25	22	1. 10YR3/2 2. 10YR5/3,3/2,7,5YR5/8	
15	26	23	22	1. 10YR3/2 2. 10YR5/3,3/2,7,5YR5/8	
16	28	27	28	1. 10YR3/2,6/4 2. 10YR4/2,6/3	
17	23	22	25	1. 10YR3/2,2/2 2. 10YR3/2,6/3,5/3	
18	31	26	15	1. 10YR3/2,6/3	
19	20	20	14	1. 10YR3/2,6/4	
20	32	24	26	1. 10YR3/2,2/2 2. 10YR3/3	
21	28	23	13	1. 10YR3/2,7/3,3/3	
22	22	22	17	1. 10YR3/3,3/2 2. 10YR2/2,3/1	古代土師
23	28	25	20	1. 10YR4/2 2. 10YR4/2	不明土師
24	51	35	20	1. 10YR3/2,2/2	古代須恵
25	42	21	9	1. 10YR3/3,6/4	古墳
28	20	16	6	1. 10YR3/2,3/3	
30	22	10	9	1. 10YR2/2,3/2,7,5YR5/8	
31	28	23	9	1. 10YR2/2,3/2,7,5YR5/8 2. 10YR3/2,4/2,7,5YR5/8	
33	36	30	32	1. 10YR3/2,3/3 2. 10YR2/2,6/3	不明土師
34	30	23	10	1. 10YR2/2,6/9	
35	43	39	20	1. 10YR3/2 2. 10YR3/3	
36	32	27	14	1. 10YR3/2,5/8,6/3 2. 10YR3/2 3. 10YR2/2,4/3	
37	19	16	11	1. 10YR2/2,6/3 2. 10YR3/3,6/3	不明土師
38	42	33	20	1. 10YR3/2 2. 10YR3/3	
39	40	38	15	1. 10YR3/3 2. 10YR3/3	不明土師
40	33	33	16	1. 10YR2/2 2. 10YR3/3,2/2,6/3	
41	26	20	19	1. 10YR3/2,7/6	
42	22	20	13	1. 10YR3/3	
43	75	70	19	1. 10YR3/2,6/3 2. 10YR4/2,6/3 3. 10YR3/2	陶生、古墳、古代土師、中世土師、不明土師
45	56	56	29	1. 10YR2/2 2. 10YR3/3,2/2,6/3	陶生、古墳、中世土師、古代須恵
46	68	18	15	1. 10YR2/2 2. 10YR3/3 3. 10YR6/3,6/3,5/2	不明土師
47	35	24	12	1. 10YR3/3,6/3,5/8 2. 10YR3/3,6/3,5/8	
50	18	16	15	1. 10YR3/2,2/2,3/4	

52	3 2	2 3	1 1	1. 10YR2/2,6/3	2. 10YR3/3,6/3	
53	3 3	2 1	1 3	1. 10YR3/3,6/3		不明上層
54	7 7	4 2	1 5	1. 10YR3/2		弥生、古墳、不明土器
55	2 8	1 6	9	1. 10YR3/3,6/3	2. 10YR3/3	
56	3 0	2 0	1 1	1. 10YR3/2,5/6		
57	3 1	2 3	1 1	1. 10YR3/3,7,5YR5/8		
58	4 0	2 5	1 3	1. 10YR3/2		
59	3 6	2 7	1 3	1. 10YR3/4,6/3	2. 10YR3/3,6/3,5/8	
60	3 4	2 8	2 1	1. 10YR3/3	2. 10YR3/3,7/6,2/1	
61	3 3	3 0	1 3	1. 10YR3/2		
62	3 8	2 7	1 5	1. 10YR3/2,2,5/8		
63	4 0	2 0	6	1. 10YR3/2,4/2		
64	3 4	2 0	2 2	1. 10YR2/2,6/3,5/8	2. 10YR3/3,6/3,5/8	
65	2 6	1 8	1 0	1. 10YR3/2,6/3,5/8		
66	2 9	2 8	7	1. 10YR3/2		
67	2 0	1 6	8	1. 10YR3/3,3/2		
68	3 0	2 6	2 8	1. 10YR2/3,4/3	2. 10YR3/3	
69	3 3	3 1	3 1	1. 10YR3/4	2. 10YR3/3	不明上層
70	3 4	2 3	1 5	1. 10YR3/3		
71	3 1	2 5	1 5	1. 10YR3/3		
72	2 4	1 8	8	1. 10YR3/3		
73	3 2	2 2	7	1. 10YR3/2		
74	3 6	2 2	1 1	1. 10YR3/2		
75	2 1	1 9	8	1. 10YR3/2		
76	3 0	2 0	6	1. 10YR3/2		
77	2 0	1 8	1 9	1. 10YR3/2		
78	1 5	1 2	1 1	1. 10YR3/2		
79	2 6	2 0	8	1. 10YR3/2		
80	2 0	1 8	2 3	1. 10YR3/2		
81	2 0	1 8	1 9	1. 10YR3/2		
82	2 6	2 0	8	1. 10YR3/2		
83	2 0	1 8	2 3	1. 10YR3/2		

※、遺構の深さは、すべて遺構確認面からその最深部までの長さをしめす。

※、複数上層については、最も上層を1とし、以下は下層にならにしたがって2以降の数字をもってあらわしている。

土坑 SK03

調査区内の西壁面際で検出された遺構である。平面形は、長径約1.05m、短径約91cm、深さは遺構検出面より約35cmを測り、方形を呈する。断面形は皿形である。

本址からは古代土師片、珠洲片を検出している（図6-202）。

覆土は黒褐色粘土質を基本とする3層（Hue10YR2/2, 5/6, 10YR3/2, 2/2, 3/3, 6/4, 10YR2/2, 3/2, 5/6）で、一部に黄褐色の粘土ブロックを含む。

不明遺構 SX01

調査区北東角で検出された。検出部分の長径は約2.24m、短径約1.92m、深さは遺構検出面より約58cm測る。覆土は他の遺構同様、黒褐色粘土質を基本とする2層（Hue10YR2/1, 2/2, 10YR2/2）で、一部に黄褐色の粘土ブロックを含む。

検出した遺物は、弥生、古墳、古代須恵器・土師器、珠洲、年代不明土器など多岐にわたる（図6-206～213、図7-214、216、217、302～304）。こうした時代を異にする遺物がまとまって出土した理由としては、長期にわたって上器捨て場的に利用されたか、あるいは、後世の農耕に関わる影響とも考えられるか、現状ではその判断は困難である。

遺構は調査区域外にのびるため、その全貌は不明である。便宜上、本稿では「落ち込み」と称する。崖外調査中に右堤保育園養藤園長より、本調査区の東側、現在の園舎の北側に隣接する位置に、大部以前には東西方向にのびる蓮畑が存在したとの伝承が集落に伝わることをご教示いただいた。また、その

広がりは明確でないものの、現在、本調査区や廩舎の北側を流れる農業用排水路を含み、さらに北側へのびていたらしいとのことであった。

遺構の北、東西側の壁面の土層状況からは、この落ち込みが両方向へのびていることは確実とみられ、上記の伝承が事実を伝えるものであるならば、往時の蓮池の一部を構成する遺構かとも思われる。

なお、晩秋から初冬の天候状態での調査ではあったが、本遺構の底部からは相当量の湧水があったことも、かつての自然条件と関わるものとも考えられる。

出 土 遺 物

今回の調査区からは、遺物収納用のコンテナにして計3箱分の遺物が出土している。時代順には、弥生時代末から古墳時代前葉の土器を最古に、古代・中世・近世の各時代の遺物が見受けられる。以下では、今回の調査区から出土した遺物のうち、主要なものに対し解説を加えていくこととする。

まず、須恵器については、当調査区からは8世紀後半代から9世紀代の須恵器が出土している。近隣に位置する麻生谷遺跡の平成7年度調査区では、古代における官衙的な施設を検出しており、出土遺物の構成比率は概して食膳具の占める割合が多かったが、当調査区においては出土量が少なく、土師器、須恵器の坏等を検出しているものの、特にそうした傾向を確認するにはいたらなかった。

土師器については、古墳時代のものをはじめ、9世紀代以降の古代のものや中世のものに区分することができる。後世の破損や磨耗などにより、接合はおろか、その調整法の識別さえも不明なものが多いが、本書に図示していないものを含めても、中世上師器の出土量が多い傾向にある。

当調査区からは内黒土器も2点出土している。いずれも小片であるため、調整法などは不明である。

その他、当調査区からは、壺をはじめ、鉢、すり鉢といった器種で構成される珠洲も出土している。また、当調査区からは5点の土錐が出土している。土錐が検出されたことは、本遺跡を営んだ人々が漁労を行っていたことを示すものである。破損等により原型をとどめていないものもあるが、図7においては、このうち図化のできる3点を掲載することとした。現状においては球形を呈するものと、円柱状のものとが見受けられるが、いずれも3~4cmと小型である。

さらに、井戸S E 01の覆土内には、破損及び投棄された状態で砥石が1点包含されていた。現状で最大長15.6cm、最大幅9.8cmの規格であり、往時においては比較的大型の部類に属する砥石であったと考えられる。石質は砂岩であり、確認できる範囲では1面の使用面が見受けられる。

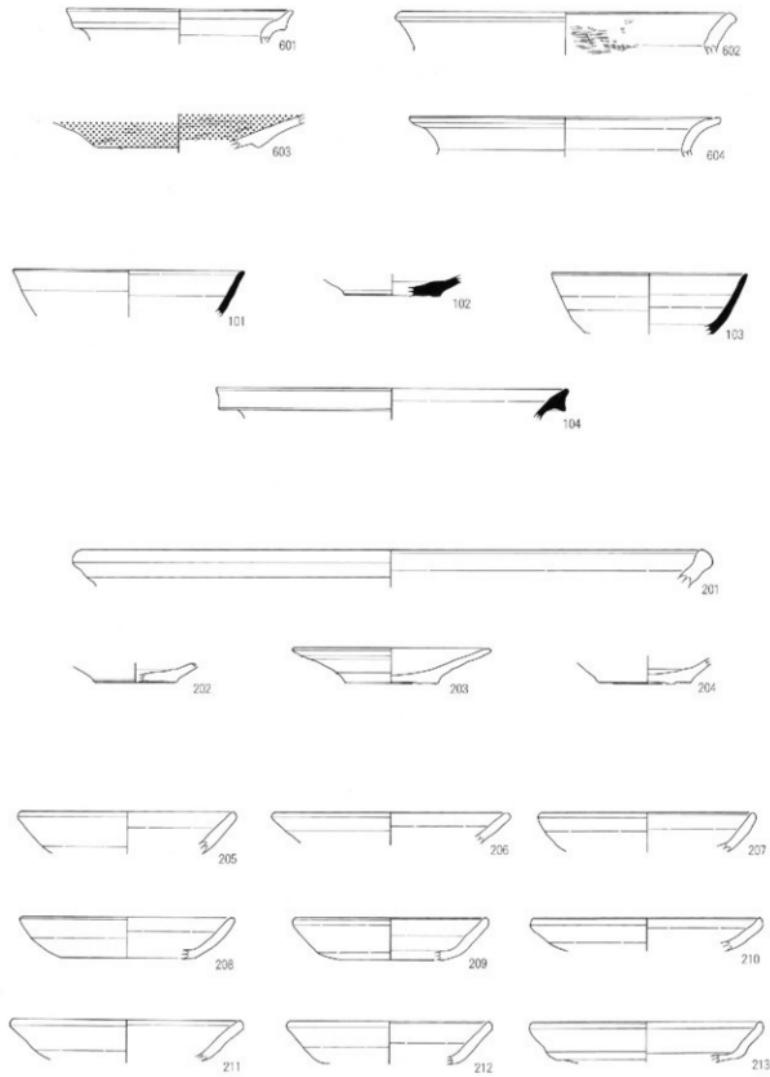


図6. 出土遺物（古墳、古代須恵器・土師器、中世土師器）

縮尺1/3

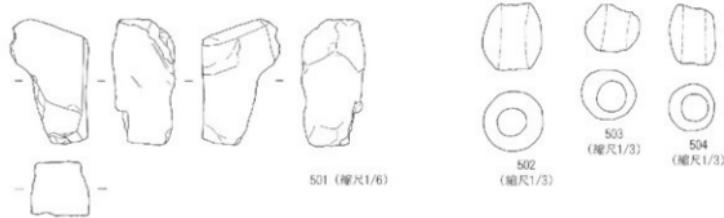
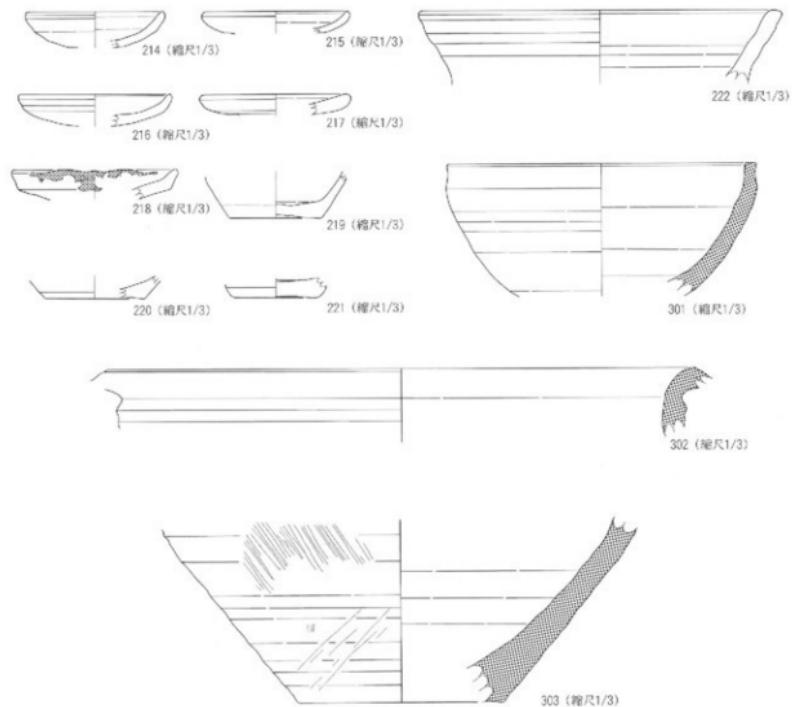


図7. 出土遺物（中世土器、珠洲、砥石、土錐）

結語

平成15年度における、柴野遺跡（石堤保育園地区）の本調査の成果について概要を述べてきた。当遺跡については、高岡市石堤地区に所在する弥生時代から近世にいたる遺跡群の一角を担うものであるが、当該地域の歴史像をめぐっては、『倭名類聚抄』に記される蠶波郡川合郷や、古代北陸道（延喜式段階）にともなう川人（合）駅などの所在地に比定する説がはやくから提起されてきた〔角川書店1978他〕。

現状においては、こうした比定案を考古学の面から肯定するには、なお今後の周辺遺跡の調査も含めて検討を続ける必要があるが、過年度における周辺地域の発掘調査成果などをかえりみるならば、上記比定説については検討をすべきであろう。

今回の調査区は、昭和56年度に調査された「アサバタケ遺跡」と隣接し〔富山県教委1982〕、また、「柴野遺跡（石堤保育園地区）」〔高岡市教委1993〕や、平成7年度に行われた「麻生谷遺跡（平成7年度地区）」とも近い位置関係にある。両者とも、古代のものと比定された掘立柱建物などの遺構を検出しており、とくに後者においては官衙的性格をうかがわせるものが得られていることから、この周辺には古代における官衙的な施設が所在したものと考えられている〔高岡市教委1997〕。

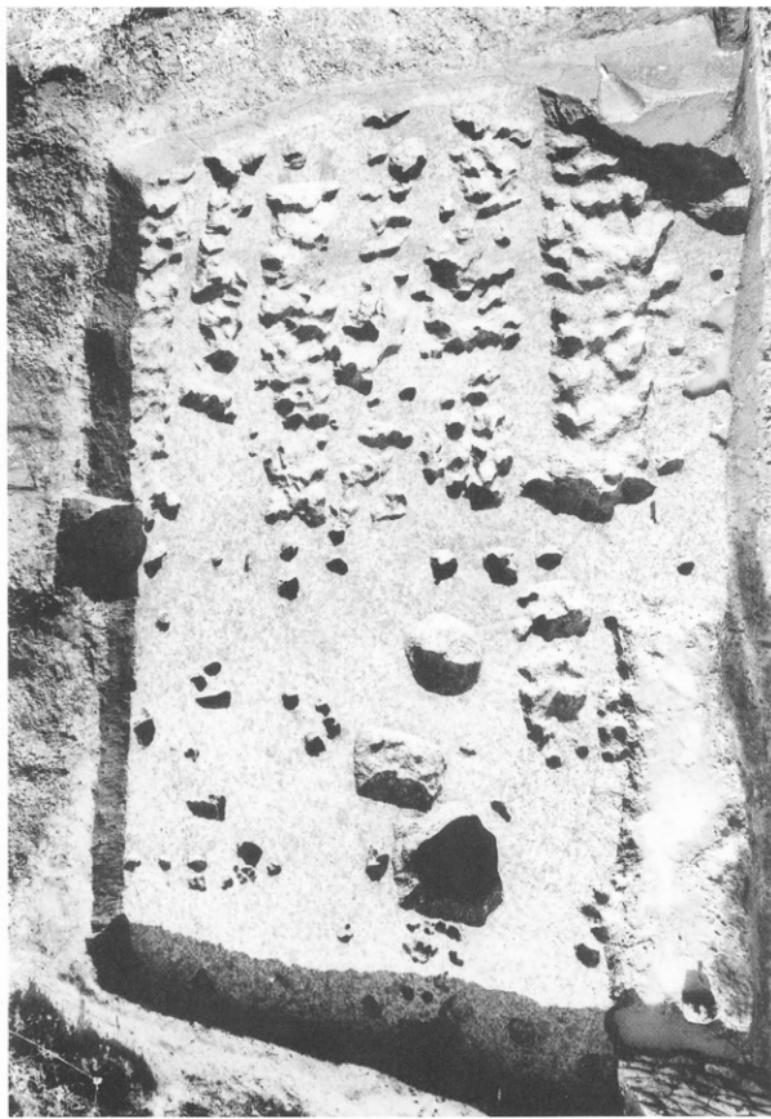
発掘調査を行った結果、掘立柱建物3棟（推定）をはじめ、井戸1基、その他土坑などを検出した。調査区が狭小であるうえに後世の擾乱も受けしており、必ずしもこの地に所在した施設の全容を把握するには至らず、また、隣接する「アサバタケ遺跡」との対比も十分に行うこととはできなかつたが、上記のような遺構がこの地においても造営され、掘立柱建物で構成される施設群が存在していたことが再確認されたことは、当該地域の歴史をひととく上で大きな成果につながっていくものと思われる。

もちろん、その実現にあたっては、今後も詳細な検討を重ねていく必要があることは言うまでもないが、ここでは当調査において得られた資料をもとに、上記のような解釈を述べるとともに、本報告書を以後の研究への橋渡しとしたい。

【参考文献】

- 角川書店 『日本地名大辞典16 富山』 1978
国史体系編纂會 『国史体系一交替式・弘仁式・延喜式』 吉川弘文館 1965
高岡市教育委員会 『高岡市遺跡地図』 2000
高岡市教育委員会 『市内遺跡発掘調査概報Ⅲ』 1993
高岡市教育委員会 『麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告』 1997
高岡市教育委員会 『麻生谷新生園遺跡 村田地区』 『市内遺跡調査概報』 VII 1998
高岡市教育委員会 『岡吉・右堤地区遺跡調査概報』 1999
富山県教育委員会 『高岡市アサバタケ遺跡』 1982
根津明義 「越中国西部地域における東大寺領庄園の現地比定について」
『日本莊園絵図修影別文編古代ワークショップ発表資料』 東京大学史料編纂室 2004

図 版 編



図版101. 調査区全景（南東方上方から）



図版102. 遺構検出状況（南方から）



図版103. S B O 1 挖立柱建物址（北方から）



図版104. S E O 1 井戸址 (南西方から)



図版105. S E O 1 (南西方から)



図版106. S E 01 完掘状況 (西方から)



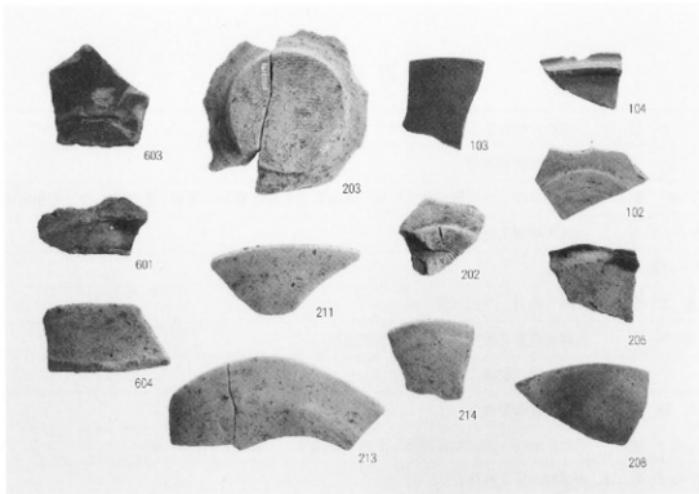
図版107. S X 01 完掘状況 (南西方から)



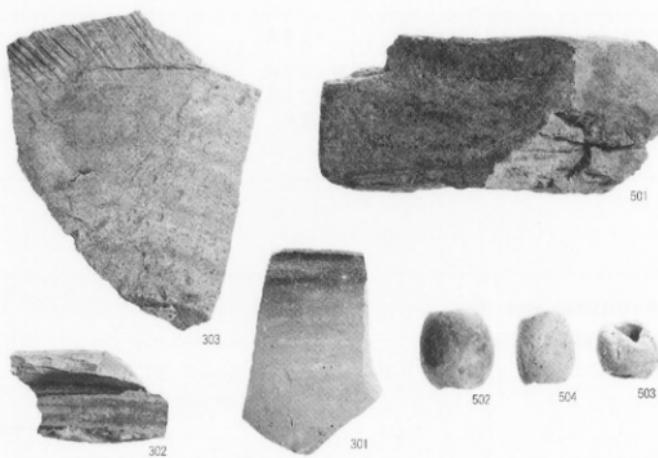
図版108. 重機掘削



図版109. 作業風景



図版110. 遺物写真



図版111. 遺物写真

報告書抄録

ふりがな	しばのいせきちょうさがいほう							
書名	柴野遺跡調査概報							
副書名	平成15年度 社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園の増築工事にともなう発掘調査							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第59冊							
編集者名	太田 浩司、守田 隆							
編集機関	高岡市教育委員会、北陸航測株式会社							
著者	守田 隆、宮森 俊英							
発行機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-8601 富山県高岡市広小路7番50号 TEL0766-20-1463							
発行年月日	西暦2004年4月15日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
柴野遺跡 (石堤保育園 地区)	富山県 高岡市 柴野 地内	01602	202045	36° 43' 41"	136° 56' 6"	2003.11.10 ~ 2003.12.04	99m ²	保育園園舎の 増築及び敷地 造成
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
柴野遺跡 (石堤保育園 地区)	集落等	弥生時代、古墳時代、古代、中世		掘立柱建物、井戸、土坑、溝状遺構		弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、 古代土師器、中世土師器、珠洲、砾石、 土鍬、その他陶磁器類		

高岡市埋蔵文化財調査概報 第59冊

柴野遺跡調査概報

平成15年度 社会福祉法人石堤児童福祉会石堤保育園の増築工事にともなう発掘調査 ——

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

2004年4月15日

印刷所 キクラ印刷株式会社

富山県高岡市福島48-2

